

だい ぶ かだい  
第5部 課題

この用紙は、大会当日使用しますので、必ずご持参ください。

だい かい  
第16回

まいにち にゅうりょく  
毎日パソコン入力コンクール

しゅう き たいかい  
秋季大会

か だい  
【課題】

だい ぶ わぶん しょうがくせいこうがくねん  
第5部 和文A 小学生高学年

かんりょうく  
ことわざ・慣用句②

せいげんじかん ぶん  
制限時間5分

とうじつ ちゅういじこう  
【コンクール当日の注意事項】

- この用紙を拡大・修飾などして、当日使用しても問題ありません。
- 団体責任者の指示にしたがい、18桁の参加番号を半角数字で入力してください。
- 課題の入力はすべて全角文字でおこなってください。スペースと改行も字数に数えます。ただし最終行はのぞきます。

※この課題は、小学館 例解学習ことわざ辞典 第二版より引用しました。  
(文字数2,080字程度)

かだいぶんしょう きんそくもじ  
〈課題文章の禁則文字について〉

毎日パソコン入力コンクールでは、引用した文章を原文のままソフトに取り込んでいるため、行頭、行末に禁則文字が来る場合があります。課題文章のPDFファイルどおりに入力すると正解になります。

しゅさい  
主催

まいにちしんぶんしゃ  
毎日新聞社

いっばんしゃだんほうじん にほん のうりょくけんていいんかい  
一般社団法人 日本パソコン能力検定委員会

こうえん  
後援


そうむしょう  
総務省





もんぶかがくしょう  
文部科学省





こうせいろうどうしょう  
厚生労働省





けいざいさんぎょうしょう  
経済産業省ほか





ぎょう じづめ ぶんしょう にゅうりょく  
1行32字詰で、つぎの文章を入力してください。





※  の箇所かしよ かいぎょうで改行 (Enter) してください。





 て か  
手を貸す   
し ご と  
仕事を手て伝つたう。手て助たすけをする。   
い し だ ん  
石段をのぼるおばあさんに手を貸す。 





  
じ が じ さん  
自画自賛   
じ ぶ ん  
自分のことを、自分じでほめること。   
「われながらすばらしい」と自画自賛する。 





  
は た け ち が  
畑はたけ違い   
じ ぶ ん せ ん も ん し ご と が く も ん ち が  
自分が専門せんもんとしていしる仕事しごとや学が問くもんと違ちがうこと。   
ほん ぎ ょう い しゃ は た け ち が し ょう せ つ か ゆう めい  
本業ほんぎょうは医い者しゃだが、畑はたけ違ちがいの小しょう説せつ家かとしてのほうゆうめいが有名だ。 



  
は な じ ょう ず き じ ょう ず  
話し上手はなしじょうずは聞き上手きじょうず   
は な し じ ょう ず ひと あ い て は な し き ひと  
話はなしの上手じょうずな人ひとは、相あ手ての話はなしをよきく人ひとでもあきる。   
は な じ ょう ず き じ ょう ず じ ぶ ん は な ひと は な じ ょう ず い  
話し上手はなしじょうずは聞き上手きじょうず、自じ分ぶんのこはばかり話はなしす人ひとは話はなしし上手じょうずとは言いえな  
いよ。 

  
み み う た が  
耳みみを疑うたう   
し ん は な し き き お も  
信しんじんらしんれんないよしんうな話はなしを聞きかきされて、聞きききちがきいきではないかと思おもう。   
さ く ひ ん い っ と う に ゅう せん き み み う た が  
作さく品ひんが一いっ等とうに入にゅう選せんと聞きいて耳みみを疑うたう。 

  
あ い う  
相あいづちを打うつ   
は な し き どう い  
話はなしを聞きききながら、「うんうん」「なるほど」などと、同どう意いしたり、う  
ななずないなたりして相あ手てのあいて話はなしに調ちょう子しを合あわせある。   
と も だ ち は な し あ い う  
友とも達だちの話はなしに「ほんほんとだだね」と相あいづちを打うつ。 

  
し た つ づ み う  
舌した鼓づみを打うつ   
し た な た  
おいしくなて舌したを鳴ならしながなら食たべる。   
め い ぶ つ べ ん ど う し た つ づ み う  
名めい物ぶつのウナギべんとう弁し当たつづみに舌した鼓づみを打うつ。 

  
わ き め ふ  
脇わき目めも振ふらず   
ひ と い っ し ん ひ と し ゅう ちゅう  
一ひつしゅうのこちゅうとを、一ひ心しゅうにちゅうするよちゅううす。一ひつしゅうのこちゅうとに集しゅう中ちゅうするよちゅううす。   
わ き め ふ は し  
脇わき目めも振ふらずはしゴールはしめはしぎはししてはしひたはしすら走はしる。 

  
なみだをのむ 

くやしい<sup>きも</sup>気持ち<sup>を</sup>、じつとがまんする。残念<sup>ざんねん</sup>な思い<sup>おも</sup>をこらえる。☞  
けがのため<sup>しあい</sup>試合<sup>で</sup>に出られずなみだをのむ。☞



よ<sup>よ</sup>読み<sup>ふか</sup>が深い☞

先<sup>さき</sup>の先<sup>さき</sup>まで深く見通<sup>ふか</sup>している。多<sup>た</sup>方面<sup>ほうめん</sup>から深く考<sup>ふか</sup>えている。☞

雨<sup>うてん</sup>天<sup>じゅん</sup>の準備<sup>び</sup>までしてくるとは、さすが<sup>よ</sup>読み<sup>ふか</sup>が深い。☞



と<sup>と</sup>お<sup>しんるい</sup>遠<sup>ちか</sup>くの親類<sup>たにん</sup>より近<sup>たにん</sup>くの他人☞

いざという<sup>とき</sup>時には、遠<sup>えんぼう</sup>方<sup>しんるい</sup>の親類<sup>きんじょ</sup>より、近<sup>たにん</sup>所の他人<sup>たにん</sup>のほうがたよりになる。☞

こ<sup>こ</sup>ま<sup>こま</sup>困<sup>ひと</sup>っていたら、となりの人<sup>たす</sup>が助<sup>たす</sup>けてくれて、こんな<sup>とき</sup>時は遠<sup>と</sup>くの親類<sup>しんるい</sup>より近<sup>ちか</sup>くの他人<sup>たにん</sup>ね。☞



き<sup>き</sup>喜<sup>しよくまんめん</sup>色<sup>き</sup>満<sup>よ</sup>面<sup>こ</sup>☞

喜<sup>よろこ</sup>びが顔<sup>かお</sup>いっぱい<sup>あらわ</sup>に表<sup>あらわ</sup>れているようす。☞

喜<sup>き</sup>色<sup>しよくまんめん</sup>満<sup>ひょうしょうだい</sup>面<sup>た</sup>で表<sup>た</sup>彰<sup>た</sup>台<sup>た</sup>に立<sup>た</sup>つ。☞



ふるい<sup>ふるい</sup>にかける☞

ある<sup>き</sup>基<sup>き</sup>準<sup>じゆん</sup>で、物<sup>もの</sup>や人<sup>ひと</sup>を選<sup>えら</sup>び分<sup>わ</sup>ける。すぐれた<sup>えら</sup>ものを選<sup>えら</sup>びとる。☞

た<sup>た</sup>くさ<sup>た</sup>んの<sup>た</sup>応<sup>おう</sup>募<sup>ぼ</sup>者<sup>しゃ</sup>の中<sup>なか</sup>からふるい<sup>ふるい</sup>にか<sup>か</sup>けて三<sup>さん</sup>人<sup>にん</sup>を選<sup>えら</sup>ぶ。☞



め<sup>め</sup>の<sup>いろ</sup>色<sup>いろ</sup>を<sup>か</sup>変<sup>か</sup>える☞

興<sup>こう</sup>奮<sup>ふん</sup>したり、腹<sup>はら</sup>を立<sup>た</sup>てたり、び<sup>び</sup>っ<sup>び</sup>くりしたり、何<sup>なに</sup>かに熱<sup>ね</sup>中<sup>ちゆう</sup>したりして、目<sup>め</sup>の表<sup>ひょう</sup>情<sup>じゆう</sup>を<sup>か</sup>変<sup>か</sup>える。☞

サ<sup>さ</sup>ッ<sup>さ</sup>カーの<sup>こと</sup>ことと<sup>なると</sup>なると目<sup>め</sup>の<sup>いろ</sup>色<sup>いろ</sup>を<sup>か</sup>変<sup>か</sup>えるね。☞



ひ<sup>ひ</sup>ざ<sup>まじ</sup>を<sup>まじ</sup>交<sup>まじ</sup>える☞

へ<sup>へ</sup>だ<sup>へ</sup>て<sup>へ</sup>なく同<sup>どう</sup>席<sup>せき</sup>する。ひ<sup>ひ</sup>ざ<sup>まじ</sup>を<sup>まじ</sup>ふ<sup>まじ</sup>れ<sup>まじ</sup>あ<sup>まじ</sup>う<sup>まじ</sup>よう<sup>まじ</sup>に<sup>まじ</sup>して打<sup>う</sup>ち<sup>まじ</sup>と<sup>まじ</sup>け<sup>まじ</sup>て話<sup>はな</sup>し<sup>あ</sup>合<sup>あ</sup>う。

。☞  
か<sup>か</sup>ん<sup>か</sup>き<sup>か</sup>ょう<sup>か</sup>問<sup>もん</sup>題<sup>だい</sup>に<sup>じん</sup>つて<sup>じん</sup>大臣<sup>だいじん</sup>と住<sup>じゅう</sup>民<sup>みん</sup>が<sup>まじ</sup>ひ<sup>まじ</sup>ざ<sup>まじ</sup>を<sup>まじ</sup>交<sup>まじ</sup>え<sup>まじ</sup>て話<sup>はな</sup>し<sup>あ</sup>合<sup>あ</sup>う。☞



は<sup>は</sup>な<sup>も</sup>を<sup>も</sup>持<sup>も</sup>た<sup>も</sup>せ<sup>も</sup>る☞

手<sup>て</sup>柄<sup>がら</sup>や勝<sup>しょう</sup>利<sup>り</sup>を<sup>あ</sup>ゆ<sup>あ</sup>ず<sup>あ</sup>つ<sup>あ</sup>たり<sup>あ</sup>して相<sup>あ</sup>手<sup>て</sup>を<sup>た</sup>立<sup>た</sup>てる。☞

先<sup>せん</sup>輩<sup>ばい</sup>の<sup>かお</sup>顔<sup>た</sup>を<sup>はな</sup>立<sup>も</sup>て<sup>も</sup>て花<sup>はな</sup>を<sup>も</sup>持<sup>も</sup>た<sup>も</sup>せ<sup>も</sup>る。☞



秋あきの日ひはつるべ落おとし

秋あきの日ひは、つるべを落おとすように、あつという間まに暮くれるものだ。

秋あきの日ひはつるべ落おとしだね、外そとはもうまっ暗くらだ。

↓

たなからぼたもち

思おもいがけない幸こう運うんがころげこむこと。

たなからぼたもちで、友ゆう人じんから「いらぬから」とパソコンをもらう

。 ↓

↓

目めは口くちほどに物ものをいいう

目めは、口くちで話はなすのと同じぐらいに、相あ手てに気き持もちを伝つたえることができる。

目めは口くちほどに物ものをいいうで、目めを見みただけでがっかりしているのがわかった。

↓

案あんの定じょう

思おもっていた通とおり。考かんえていた通とおり。

心しん配ぱいしていたら案あんの定じょう雨あめがふり出だした。

↓

あらしの前まえの静しずけさ

大たい変へんなことが起おこる前まえには不ぶ気き味みな静しずけさがあるものだ。

いやに静しずかだな、まさには、あらしの前まえの静しずけさだ。

↓

腹はらを割わる

思おもっていることをかくさず打うち明あける。

腹はらを割わって話はなし合あう。

↓

手てに汗あせをにぎる

見みたり聞きいたりしながら、きんちょうしたり興こう奮ふんしたりする。

手てに汗あせをにぎる大だい接せつ戦せん。

↓

前ぜん代だい未み聞もん

今いままで一いち度ども聞きいたことがないこと。非ひ常じょうにめずらしいこと。

前ぜん代だい未み聞もんのちん事じ件けん。

↓

無む理りが通とおれば道どう理り引ひっ込こむ

道理どうりにそむくことが平然へいぜんと行おこなわれるようになると、道理どうりにかなった正ただしいことは行おこなわれなくなる。↵

割り込みわりこみが横行おうこうすると、無理むりが通とおれば道理どうり引ひっ込こむで、だれもきちんならと並ならぼうとしなくなる。↵

↵

おにの目めにもなみだ

情なさけ知らずの冷つめたい人ひとでも、心こころを動うごかされてなみだを流ながすことがある

。↵

厳きびしいコーチもおにの目めにもなみだで、優勝ゆうしょうのしゅんかんなに泣ないていた。↵

↵

七なな転ころび八や起おき

何なん回失かい敗ししてもくじけずに、立たち上あがること。人生じんせいには浮うき沈しずみが多おほ

いことのとえ。↵

何なんのこれしき、人生じんせい七なな転ころび八や起おきさ。↵

↵

目め頭がしらが熱あつくなる

感動かんどうして、目めから涙なみだが出でそうになる。↵

命いのちがけでヒナを護まもる親おやどり鳥すがたの姿めがしらに目め頭がしらが熱あつくなる。↵

↵

虫むしが知しらせる

何なにかが起よこりそうだという予かん感がする。↵

虫むしが知しらせたのか、早はやく引ひき上あげたので雨あめにあわずにすんだ。↵

↵

三み日っかにあげず

間あいだをおかないで、度たび々たび何なにかをする。↵

その店みせのラらーメめンがすきっかり気きに入いり三み日っかにあげずたに食いべいに行く。↵

↵

聞ききしに勝まさる

聞きいていた以上いじょうにすりばりしく立り派っだ。↵

夕ゆう日ひにかがやく富ふ士じは聞ききしまさに勝うつくる美まさしさだ。↵

↵

論ろんより証しょう拠こ

あれこれ議ぎ論ろんするよりも、証しょう拠こを示しめすこといによって、ものごとははっ

きりする。↵

スキーいに行いったことが、うそしやしんでないことは、この写ろん真しょうが論ろんより証しょう拠こだ

。 ◀

◀

ひゃくり い もの くじゅう なか  
百里ひゃくりを行く者は九十くじゅうを半なかばとす

なにごと お もっと むずか しっぱい おお さいご き  
何事なにごとも、終おわりのほうもっとが最むずかも難しっぱいしく、失おお敗さいごも多きいので、最さいご後きまで気きを

ゆるめてはいけない。 ▶

ひゃくり い もの くじゅう なか すこ おも き  
百里ひゃくりを行く者は九十くじゅうを半なかばとすだよ、もすこう少おもしと思きって気きをゆるめる

な。まだ半はんぶん分おもだと思おもえ。 ▶

◀

ぶんめいかいか  
文明開化

せいよう ぶん か せっきよくてき い よ なか きゅうそく しん ぽ  
西洋せいようの文化ぶんを積せっきよくてき極てき的てきにとり入いれ、世よの中なかが急きゅうそく速そくに進しん歩ぽすること。 ▶

ぶんめいかいか  
文明開化で、ちよんまげはなくななった。 ▶

◀

お  
ふに落おちない ▶

なっとく  
納得なっとくがいかない。 ▶

お てん しつもん  
ふに落おちない点てんがあれしつもんば質しつもん問もんしてくだしさい。 ▶

◀

ほうほうのてい体 ▶

あわてふためいて逃にげる様よう子す。 ▶

かみなり てい いえ に こ  
雷かみなりにあていい、ほうほうのいえ体にで家こに逃にげ込こむ。